

パブリック・コメント手続（意見募集）

横須賀港長期構想について

意見募集期間

令和3年（2021年）
10月27日（水） ～ 11月16日（火）

お問い合わせ先：横須賀市みなと振興部港湾整備課
電話046-822-9464（直通）

横 須 賀 市

パブリック・コメント手続について

市政の透明化・公正化をすすめ、市民の皆さんが市政へ参画しやすくするために、市の重要な政策の決定に当たって、次の手順で行う一連の手続をいいます。

- (1) 市の基本的な政策決定に当たり、その内容等を事前に公表します。
- (2) 公表したものに対する市民の皆さんからのご意見の提出を受け付けます。
- (3) お寄せいただいたご意見の概要とご意見に対する市の考え方、公表した内容等を変更した場合はその内容を公表します。

意見の提出方法

1 提出期間 令和3年（2021年）10月27日（水）から11月16日（火）まで

2 あて先 みなと振興部港湾整備課

3 提出方法

○書式は特に定めておりません。

○住所及び氏名を明記してください。

なお、市外在住の方の場合は、次の項目についても明記してください。

（1）（市内在勤の場合）勤務先名・所在地

（2）（市内在学の場合）学校名・所在地

（3）（市内に納税義務のある場合）納税義務があることを証する事項

（4）（当該意見募集案件に利害関係を有する場合）利害関係があることを証する事項

○次のいずれかの方法により提出してください。

（1）直接持ち込み

・みなと振興部港湾整備課（横須賀市役所2号館5階）

・市政情報コーナー（横須賀市役所2号館1階34番窓口）

・各行政センター

（2）郵送

〒238-8550

横須賀市小川町11番地

横須賀市役所 みなと振興部港湾整備課

※「〒238-8550 港湾整備課」で届きます

（3）ファクシミリ

046-826-3210

（4）電子メール

pc-ph@city.yokosuka.kanagawa.jp

個々のご意見等には直接回答いたしませんので、予めご了承ください。

ご提出いただいたご意見等とこれに対する考え方は、意見募集期間終了後、とりまとめて公表します。

意見募集にあたって

横須賀市では、横須賀港の港湾計画改訂を進めています。

港湾計画は、社会経済情勢や港運の動きなどの変化を踏まえ、横須賀港における物流や人流、港湾利用、港湾環境などについて調査・分析し、概ね 10~15 年先における港湾空間のあるべき姿を実現することを目標としています。

港湾整備が長期にわたることを踏まえ、港湾計画の改訂にあたっては、20~30 年先の長期的視野に立った総合的な港湾空間の形成とそのあり方をとりまとめた「長期構想」の検討が必要とされており、その前半部分の取組みを落とし込んで計画改訂とすることとなっています。

このたび横須賀港長期構想案を作成しましたので、パブリック・コメント手続により皆様のご意見をお伺いします。

長期構想の構成

- 1 横須賀港の現況
- 2 地域の発展方向と横須賀港の役割
- 3 港湾を取り巻く環境変化
- 4 横須賀港への要請
- 5 横須賀港の課題
- 6 横須賀港長期構想

詳細については、「横須賀港長期構想（案）」でご確認ください。

長期構想とは？

港湾における長期構想とは、港湾利用者、市民、関係行政機関、学識者など、様々な港湾関係者の意見・要請をもとに、**20～30年後の長期的視点に立った港湾の目指すべき将来像やその実現に向けた港湾利用の基本的方向**を明らかにするものです。

横須賀港長期構想

横須賀港の港湾計画は、平成17年3月に改訂（見直し）しましたが、その後、概ね15年が経過し、港湾を取り巻く社会経済情勢や利用状況に変化が生じていることから、将来にわたって横須賀市の発展に寄与するため、港湾計画の改訂に向けた検討を進めています。

「横須賀港長期構想」はこのような状況の変化を踏まえ、学識経験者及び港湾関係者、関係行政機関等の意見や要請をもとに、**概ね20～30年後の将来像を描き、今後の横須賀港の港湾整備の在り方について取りまとめたものです。**

■横須賀港の課題

物流・産業

- 課題1 完成自動車輸送機能の制約
- 課題2 係留施設の不足
- 課題3 人流と静脈物流等の混在

- ・岸壁水深の不足による非効率な輸送
- ・新たなフェリー就航に伴う係留施設の不足
- ・ヤード不足に伴う人流と静脈物流等の近接

交流・環境

- 課題4 大型のプレジャーボート受入の可能性
- 課題5 海辺とまちとの連携
- 課題6 人流の維持・拡大
- 課題7 港湾環境の改善

- ・大型のプレジャーボートの受入環境の整備不足による観光収入取得の機会損失
- ・港・水辺とまちの連携不足
- ・既存の観光資源・施設の活用への対応
- ・再生可能エネルギーの導入拡大への対応

安全・安心

- 課題8 耐震強化岸壁の不足
- 課題9 港湾施設の老朽化
- 課題10 作業船の係留場所の分散
- 課題11 放置艇の収容

- ・大規模地震発生時の緊急物資の輸送等への対応
- ・港湾施設の老朽化に伴う港湾活動の停滞のおそれ。
- ・作業船の利用に対する非効率な運用
- ・放置艇による市民の安全や環境・景観への対応

■横須賀港の長期構想の基本理念と基本方針

基本理念

基本方針

- ・自動車産業や造船産業等の物流・産業拠点
- ・海に囲まれた美しい自然環境・景観や歴史的な資産が多数存在
- ・東京湾の湾口部に位置し、海上アクセスの容易性、立地上の優位性
- ・広域高規格幹線道路ネットワーク整備により、陸上アクセスも大幅に改善

～地域の活力を支え、
首都圏港湾機能の一翼を担うみなと～

物流・
産業

東京湾口の立地を活かして地域産業の活力を支え物流の効率化に貢献するみなと

交流・
環境

三浦半島の豊かな自然や近代化遺産を活かして新たな海辺交流を創造するみなと

安全・
安心

防災力を強化し市民生活や港湾活動に安全・安心をもたらすみなと

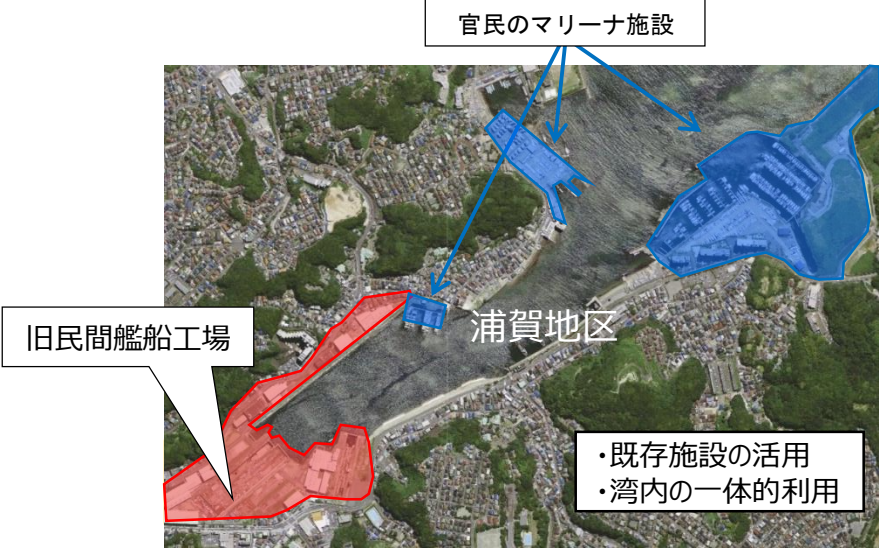
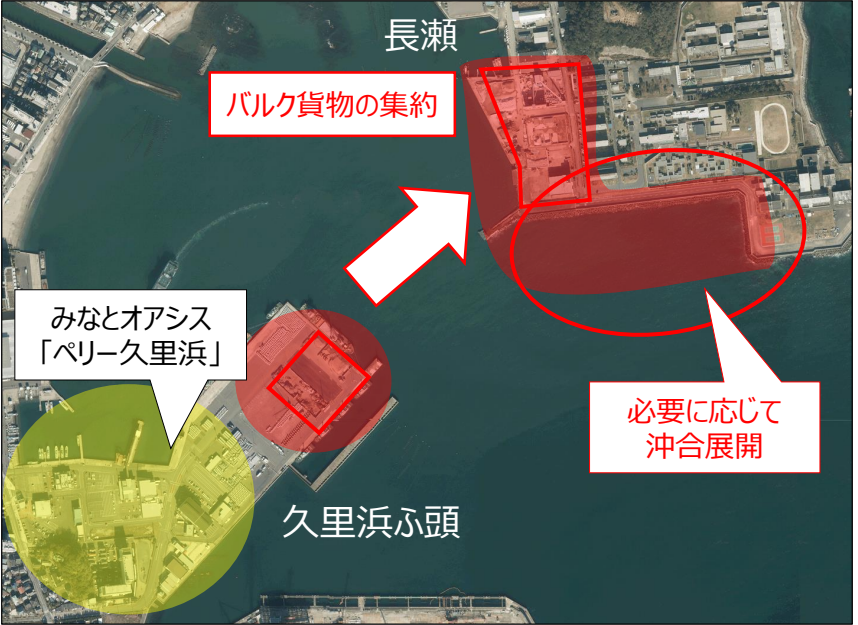
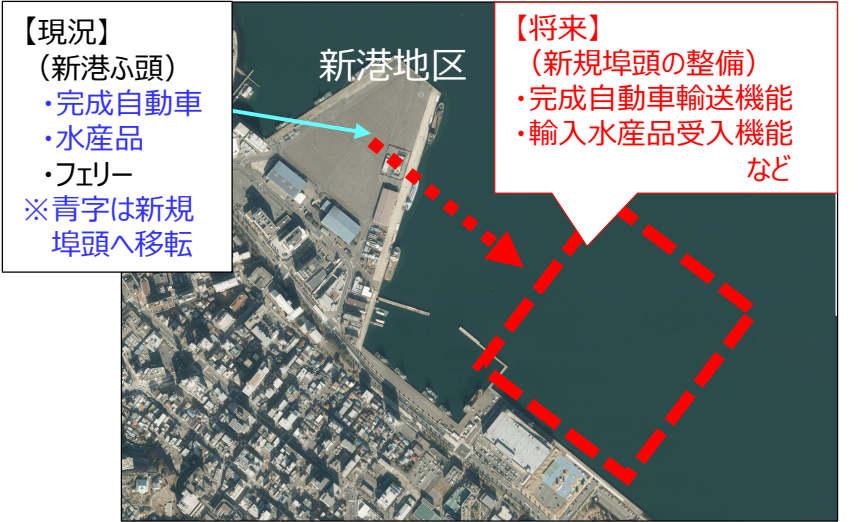
■横須賀港の施策及び取組内容

施 策			取組内容
物流・産業	1	外内貿物流機能の再編・強化	完成自動車輸送機能の強化 輸入水産品受入機能の強化
	2	モーダルシフトの受け皿としての機能強化	内航フェリー輸送機能の強化 内貿ユニットロード航路の拠点形成
	3	バルク物流機能の集約・効率化	バルク貨物取扱埠頭の集約・再編 静脈物流拠点の集約・再編 エネルギー関連貨物輸送機能の確保
交流・環境	1	大型のプレジャーボート拠点の形成	大型のプレジャーボート受入れ機能の強化 まちづくりと連携した拠点整備
	2	賑わいと憩いの海辺交流空間の形成	拠点間ネットワークの強化 海洋性レクリエーションの振興と漁業との共存 人流機能の維持・強化
	3	環境に配慮した港湾施設の整備	再生可能エネルギー関連貨物輸送機能の確保 環境負荷の少ない機器・電源への転換
安全・安心	1	災害対応力の強化	耐震強化岸壁の整備 港湾BCPの継続的な改善 静穏度向上に向けた取組の推進
	2	戦略的な維持管理の推進	予防保全型の維持管理の実施 既存ストックの利用転換・再編
	3	小型船等係留施設の集約・確保	作業船係留施設の適切な配置・集約 陸域の放置艇対策の実施

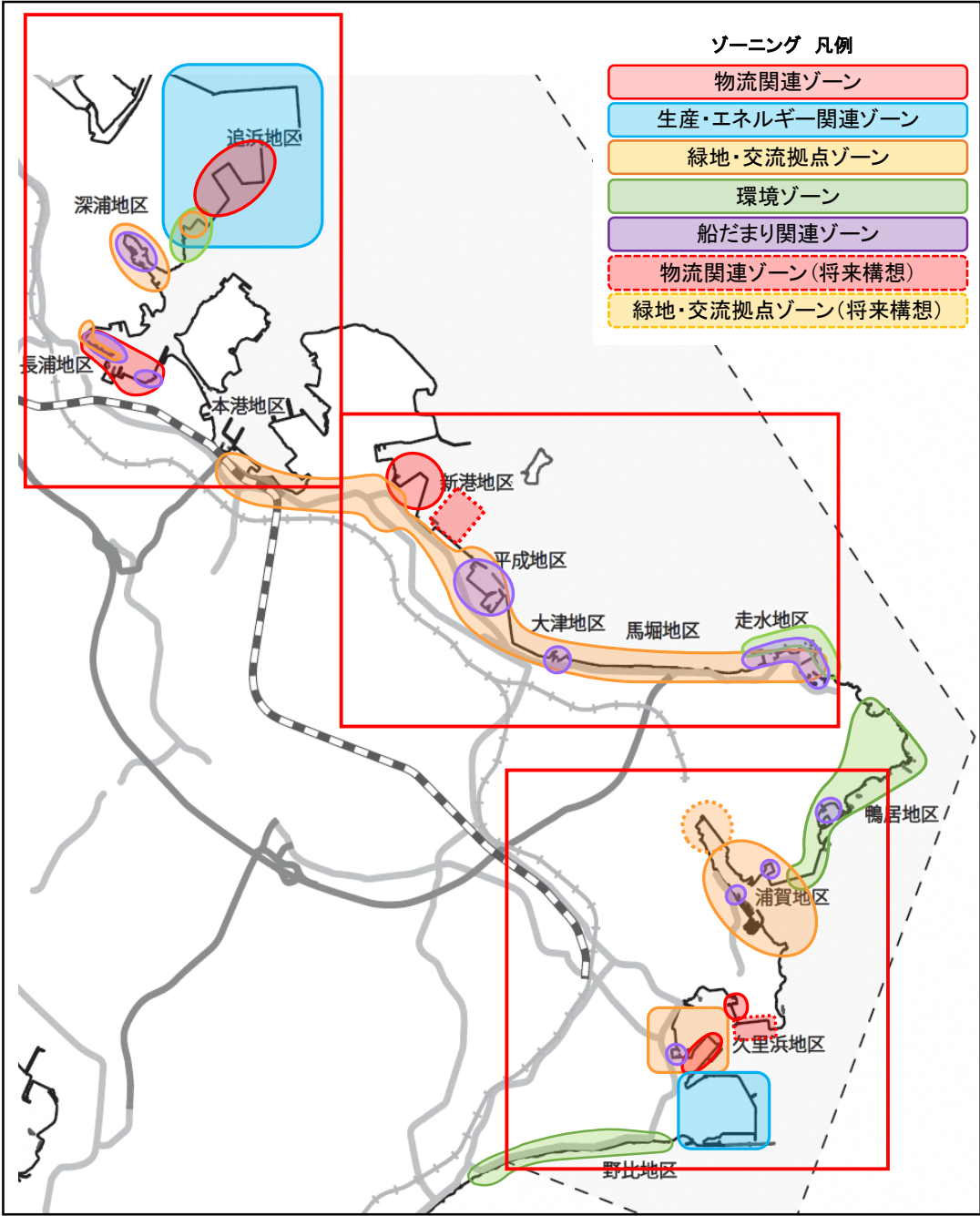
■ 施策・取組と対応時期

短期：～10年、中期：10～15年、長期：15年～

施策			取組内容		取組時期			対象地区	
					短期	中期	長期		
物流・産業	1	外内貿物流機能の再編・強化	完成自動車輸送機能の強化	大型の自動車専用船等に対応する新規埠頭の整備を進め、完成自動車輸送機能の移転・強化を検討します。	●	●		新港（新規埠頭）	
			輸入水産品受入機能の強化	大型化する冷凍マグロ運搬船に対応する新規埠頭の整備を進め、輸入水産品受入機能の移転・強化を検討します。	●	●		新港（新規埠頭）	
	2	モーダルシフトの受け皿としての機能強化	内航フェリー輸送機能の強化	継続的なポートセールス等の展開と積極的な情報発信により安定的な集荷を支援するとともに、新規埠頭の整備による既存貨物の移転を行い、新港ふ頭を内航フェリー中心の利用への転換を検討します。久里浜地区は、立地特性を活かし、既存埠頭を活用した内航フェリー等の就航を目指します。	●	●		新港・久里浜	
			内貿ユニットロード航路の拠点形成	モーダルシフトの受け皿として、複数航路の開設を目指し、航路間の積替えも可能となる多様なサービスも提供する国内複合一貫輸送網における結節機能の強化を図り、内貿ユニットロード航路の拠点形成を目指します。		●	●	新港（新規埠頭）	
	3	バルク物流機能の集約・効率化	バルク貨物取扱埠頭の集約・再編	久里浜地区長瀬や長浦地区に係留施設及び保管施設を整備し、バルク貨物機能の移転・集約などを検討します。必要に応じて沖合への用地の拡幅を検討します。		●	●	長浦・久里浜（長瀬）	
			静脈物流拠点の集約・再編	久里浜ふ頭では、周辺環境との調和と、フェリー等の就航を目指すため、久里浜地区長瀬の整備を進め、既存貨物の移転を行い、静脈物流拠点の集約・再編を検討します。		●	●	久里浜（長瀬）	
			エネルギー関連貨物輸送機能の確保	地域への安定したエネルギー供給を支えるため、エネルギー関連貨物の確保を図ります。	●			久里浜	
	交流・環境	1	大型のプレジャーボート拠点の形成	大型のプレジャーボート受入れ機能の強化	浦賀地区においては、ビジターバースの整備を検討し、大型のプレジャーボート受入機能の強化を図ります。	●	●		浦賀
				まちづくりと連携した拠点整備	浦賀レンガドックの利活用を図るほか、海辺のまちづくりと連携した水域の利用を検討します。		●	●	浦賀
2		賑わいと憩いの海辺交流空間の形成	拠点間ネットワークの強化	既存施設の適切な維持管理やまちとの連携の観点からの改良、新港～平成地区での物流機能や利用再編を踏まえた緑地やプロムナードの検討、民間投資による海辺空間の活性化を図る方策の検討を行います。	●	●	●	各地区	
			海洋性レクリエーションの振興と漁業との共存	誰もが安心して海に親しめる空間づくりなどを検討します。また、様々な海洋性レジャーの受入れに向け、活動空間の整備を検討するとともに、利用についてのルールを整理します。漁業者とのトラブルがないよう関係者と十分な調整を行い両者の共存を図ります。	●	●	●	各地区	
			人流機能の維持・強化	「みなとオアシス」の活性化により、久里浜地区の交流人口を拡大し、各航路との接点を設け、各航路の利用促進を図ります。	●	●		新港・久里浜など	
3		環境に配慮した港湾施設の整備	再生可能エネルギー関連貨物輸送機能の確保	今後整備する係留施設では、再生可能エネルギー関連貨物としてバイオマス発電燃料等の取扱いも検討します。		●	●	長浦など	
			環境負荷の少ない機器・電源への転換	陸上給電設備の整備など、環境への負担を軽減する機器等への転換を図ります。	●	●		新港、久里浜など	
安全・安心		1	災害対応力の強化	耐震強化岸壁の整備	輸送需要や地理的特徴を踏まえた、適切な場所に耐震強化岸壁を整備することを検討します。また、幹線物流を継続させるための耐震化も検討します。	●	●	●	長浦・新港（新規埠頭）
				港湾BCPの継続的な改善	今後、大規模災害の発生が予想される中、災害時における港湾機能の維持等に関する実効性向上のため、港湾BCPの継続的な改善に取り組みます。	●	●	●	各地区
	静穏度向上に向けた取組の推進			港湾活動や漁業活動が安全に行える静穏な水域を確保するため、必要な施設整備を検討します。	●	●	●	新港（新規埠頭）、平成、久里浜など	
	2	戦略的な維持管理の推進	予防保全型の維持管理の実施	維持管理費用の平準化・縮減を目指し、維持管理計画に基づき、適時・適切な点検診断及び補修等を実施します。	●	●	●	各地区	
			既存ストックの利用転換・再編	利用者の港湾活動が停滞する事がないように、戦略的なストックマネジメントの観点から、既存ストックの統廃合や有効活用を検討します。		●	●	各地区	
	3	小型船等係留施設の集約・確保	作業船係留施設の適切な配置・集約	作業船は大規模災害時に東京湾内の港湾施設等の復旧に必要な不可欠なので、主に横須賀港北部の静穏な水域への配置を検討します。	●	●	●	長浦など	
			陸域の放置艇対策の実施	注意喚起や既存のポートパークへの誘導などの適切な対応を行い、今後の対策について検討します。	●	●	●	深浦・浦賀 など	

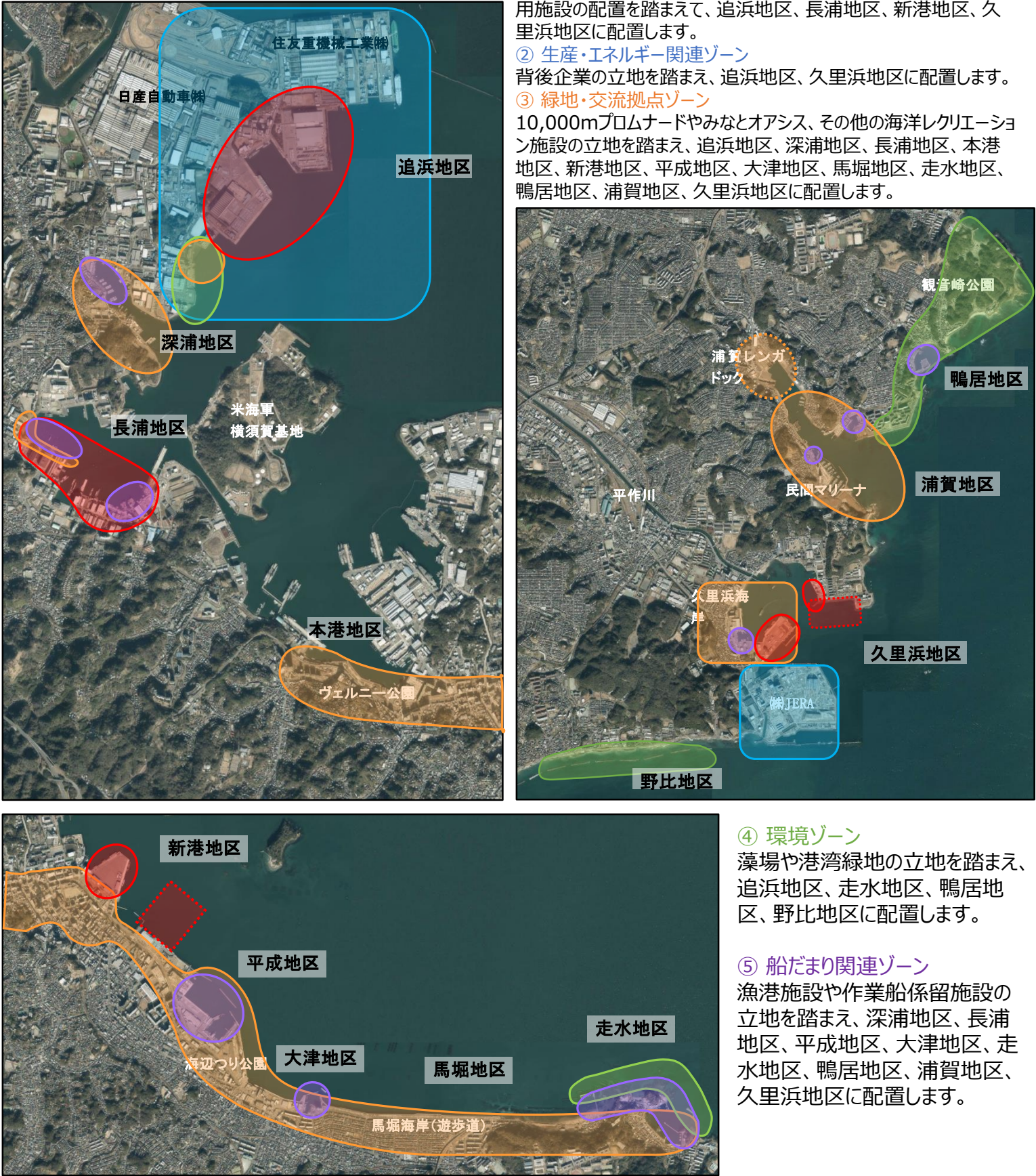


■横須賀港の将来ゾーニング図



物流関連ゾーン 背後圏の産業・経済を支える物流拠点として、港湾施設及び物流施設を提供する空間	生産・エネルギー関連ゾーン 臨海部に立地する工場や発電所の産業活動に提供される空間	船だまり関連ゾーン 小型船だまりに提供される空間
緑地・交流拠点ゾーン 港湾緑地やプロムナードなどみなとの賑わい創出のために提供される空間	環境ゾーン 貴重な自然環境の保全・再生のために提供される空間	

■地区別の空間利用計画



- ① 物流関連ゾーン
既存の港湾施設の配置及び新規整備検討中の施設の配置、専用施設の配置を踏まえて、追浜地区、長浦地区、新港地区、久里浜地区に配置します。
- ② 生産・エネルギー関連ゾーン
背後企業の立地を踏まえ、追浜地区、久里浜地区に配置します。
- ③ 緑地・交流拠点ゾーン
10,000mプロムナードやみなとオアシス、その他の海洋レクリエーション施設の立地を踏まえ、追浜地区、深浦地区、長浦地区、本港地区、新港地区、平成地区、大津地区、馬堀地区、走水地区、鴨居地区、浦賀地区、久里浜地区に配置します。
- ④ 環境ゾーン
藻場や港湾緑地の立地を踏まえ、追浜地区、走水地区、鴨居地区、野比地区に配置します。
- ⑤ 船だまり関連ゾーン
漁港施設や作業船係留施設の立地を踏まえ、深浦地区、長浦地区、平成地区、大津地区、走水地区、鴨居地区、浦賀地区、久里浜地区に配置します。